2011年(平成23年)

第48号

(12月15日)

# 平安月報

The HEIAN monthly report

発 行 所:立正佼成会 京都教会 発行責任者:涉外部長 宮地啓安 〒605-0041 京都市東山区三条蹴上 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

# 『世界平和に向けて前進!』宗教青年が誓い合う

## 新宗連青年会「結成50周年記念式典」

11月26日(土)、大阪・富田林市のパーフェクトリバティー教団(PL)大本庁錬成会館大ホールで、『世界平和への道ーー共に手をたずさえ前進しよう』をテーマに、新宗連青年会(新日本宗教青年会連盟)の「結成50周年記念式典」が開催された。

式典では、保積志弘委員長の「祈りのことば」、岡野聖法新宗連理事長(解脱会法主)の祝辞に続き、映像作品『50年のあゆみ』が上映されました。その後、救世真教と本会から二人の青年が体験発表、深田充啓新宗連名誉理事長(青年会第二代委員長、円応教教主)が「青年へのメッセージ」を伝えた。

このあと、PL学園出身で元プロ野球選手の桑田真 澄氏が『試練は人を磨く』をテーマに記念講演。多く の挫折を味わいながらも、トイレ掃除やごみ拾いなど、



桑田氏の講演



11 の地方連盟代表が登壇

『表』の努力を積み重ねたことで、目に見えない大きなパワーの働きにより、自分の実力以上の良い成績が自然と得られた体験を語った。

エンディングで、11の地 方連盟の代表が登壇し、それ ぞれのスローガン(未来に向 けた決意)を披露。最後に、 保積委員長が「これからも共 に手を携えて前進する」と誓 願し、式典を終了した。式典 後、同会館内で記念祝賀会が 行われた。



式典後の祝賀会



京都府協議会から参加

6:30~

## 京都府協議会青年部が交流

12月8日(木)、新宗連京都府協議会青年部が四 条河原町の「ゆず家」にて、交流会を実施。

同青年部は、今年新たに発足し、新宗連近畿総支部 としては県単位で初めて組織された。この席で、来年 2月18日に東日本大震災学習会を、3月10日に同 慰霊祭を開催することが確認された。

# 京都教会長に佐藤益弘が就任

## (佐藤教会長の経歴紹介)



12月1日、新教会長として佐藤益弘(54)が就任した。出身は東京・葛飾、大学卒業後、学林に入林。卒林後、教団に入職し、平成10年まで秘書課に奉職。その後、湘南教会(神奈川)、富山教会、福井教会の教会長を歴任。

#### 1月の教会行事

1月 1日(日)元旦参り

7日(土)御親教 9:00~ 10日(金)脇祖さまご命日 9:00~

15日(日)釈迦牟尼仏ご命日 9:00~

成人式(ご命日式典終了後)

20日(金) 寒中読誦修行(始) 6:00~

※法華三部経を読誦します

29日(日)寒中読誦修行(終) 6:00~

検にの n 例の をが災会ぶ直象大 神がのか視に 旨 ŧ 口 らはお 神仏に 興日迎の 削い ことはいれたことはいれた。 いりが術 Ś 敬た 理 分かを証が進 うの も服進 者 て策去てた 再のいがのいと と事たい自 本学を現

## 佐藤教会長就任式

12月3日(土)、国会議員・地方議員を来賓として迎え、佐藤益弘新教会長の就任式が行われた。

野上支教区長から佐藤氏の経歴紹介と西日本支教 区体制の説明があり、田中婦人部長の体験説法、前原 誠司民主党政調会長のあいさつの後、佐藤新教会長が 登壇し法話を述べた。式典後は普門館ロビーにて来賓 者と名刺交換会が行われた。









# 中央支部発足10周年のつどい

11月27日、中央支部10周年のつどいがホテル京阪・東天紅で開催され、84名の参加があった。

中央支部はそれまでの下京・中京両支部が2002年に統合され発足し、10年目を迎えたことを記念して今回のつどいになった。

初夏の頃から準備を進め、当日の運営は青年部中心に行なった。当日参加出来ない人には事前にメッセージを募集したり、ピアノ演奏しておいた曲を流すなど若者らしい企画がみられた。

で成会クイズでは笑いがあり、京都教会の歴史や支部活動の懐かしいスライド上映では歓声が沸き起こるほど好評で、参加者は自分たちの歩みをかみしめていた。そして、今後15年、20年と続く中央支部の発展に向けて、更なる精進を誓い合った。





## 中村教会長離任式

11月27日、中村教会長さんの「離任式」と「中村教会長をおくる会」が行われた。門川市長をはじめ国会・地方議員も臨席し、多数参加した会員とともに、別れを惜しみながら、最後の教会長の言葉に聞き入っていた。中村教会長の在任期間は7年。その間、WCRPWではじめ教会発足50周年記念式典など大行事の大役を果たされ、本部の時務部長として赴任された。





# 「ありがとう」を1日100回

# 壮年部を中心に運動展開中

京都教会では平成22年7月に「ありがとう 1日100回運動推進委員会」を発足し、各支部の委員を中心に運動を推進している。委員長の松田氏は、「目に見える活動の成果はなかなか現れないが、委員さんを中心に『ありがとう』の持つ力とそのすばらしさを信じて活動を進めていきたい」と抱負を語っている。

この運動の輪が広がり、一人ひとりが幸せを実感していけるようにと、これからも取り組んでいきたいとしている。

#### 【活動状況の報告】

- ・「ありがとう川柳」(教会食堂に掲示)
- ・活動状況の掲示(入り口横の掲示板)

#### を意味します。

そして、信仰がもっと深まれば、相対の世界の価値観から絶対の世界の価値観へと、私たちの目が開かれていきます。つまり、自分と自分以外の世界は別々に存在している(相対の世界)という認識しか持ち得なかった私たちが、自分も含めてすべてのものが一つにつながっている(絶対の世界)何かを感じ、そこに大いなるいのち――仏の働きを実感できるようになるのです。このような心境になると、目の前の現象は自分の心が引き起こしていると無条件で受けていくことができます。心と現象は不二のものと受け止めることができるからです。

# ●すべて自分

(佼成会のことば)

私たちは法座などで「因たり、縁たりだよ。だから人じゃないんだよ。すべてあなたなんだよ」と教えられ、「すべて自分」と受け止めるようにご指導いただいてきました。「因たり、縁たり」とは自分の因とふさわしい縁が出会い、ふさわしい果報(結果)が出てくるということを意味しています。また、「すべて自分」と受け取ることは、一つ一つの事象を善知識として学び、自分自身を深く内省して自らの心田を耕していくこと

# 地元のお祭りに花を添えた 一明るい社会づくり運動一

#### ガラシャ祭に出店 ~乙訓明社~

11月13日、長岡京市の最大のイベント「ガラシャ祭」が開催された。乙訓明社は、毎年同祭に参加し、今回は焼きそばの模擬店を出店した。

また、ステージ・イベントに東山普門太鼓が出演し、 祭を盛り上げるのに一役買っていた。





#### 宇治市福祉まつりに出店 ~宇治明社~

11月6日、宇治市社会福祉協議会主催の「福祉まつり」が『絆を大切に』をテーマに開催された。

宇治明社から焼きそばの模擬店を出店。明社のメンバー20名程度の参加者。また、会場内に「願いの木」と題し、東日本大震災支援の復興への願いを書いた短冊をぶら下げた。30,387円と義援金が集まった。

## 観光地をクリーンに ~右京明社~

11月27日、右京明社は観光客で賑わう嵐山・嵯峨野において、クリーンキャンペーンを実施した。京福電車の嵐山駅をスタートし、天龍寺境内、亀山公園、嵯峨野竹林を清掃した。

同明社では基盤活動として、毎月最終月曜日に4ヶ

所に分かれて「清掃奉仕」を実施。今回は紅葉の時期に合わせ、ハイキングを兼ねて、一堂に集まって実施した。昼には揃って弁当を開き、メンバーの親睦を深めた。







# 「正しい人間観・社会観・価値観をひろめ、差別のない世の中に」 人権問題研修会

11月7日(月)、京都商工会議所にて、京都府、京都府宗教連盟、同和問題に取り組む京都府宗教者連絡協議会が主催して、宗教法人関係者人権問題研修会が開催された。毎年開催される研修会を通じて、宗教者自身が人権に関する実態と正しい知識と身につけ、人権が尊重される社会の実現に向け、日々の宗教行事や活動に取り組めるようにしている。

まず、主催者の挨拶があり、西光寺副住職、鯏水平社博物館評議員の清原降官氏による講演が行われた。



人権問題研修会



講師:清原隆宣氏

その後、臨済宗妙心寺派・ 人権擁護推進本部の荻須 慈海氏からの活動報告、新 しい命の誕生を控えた家 族とその周りの人々のふ れあいや葛藤をえがいた 映画「めばえの朝(あし た)」の上映があった。

講師の清原隆宣(りゅうせん)氏は、1952年奈良県御所市に生まれ、1975年大阪府富田林立第一中学校、1978年奈良県御所市立大正中学校を経て、1984年奈良県御所市同和

教育研究会事務局長、1987年御所市同和教育推進事務局長に就任。2002年大正中学校に復帰、2006年教職を引退し、講演活動を積極に展開。

同氏は、「差別とは人がつくった"ものさし"。差別には歴史性・社会性があり、迷信や風習へのこだわりがある。世間体にしばられないことが大切」と述べ、水平社の思想や取り組みについて語った。

#### 新宗連・滋賀京都両協議会 合同望年会を開催

12月6日(火)、 京都全日空ホテルに て、新宗連・滋賀県・ 京都府両協議会の望 年会が開催された。 33人が参加した。

この望年会は、両



合同望年会々場にて

協議会のメンバーの親睦を深めることを目的として、 毎年実施されている。世界平和の祈願と東日本大震災 犠牲者への慰霊を込めて黙とうから始まり、両協議会 議長のあいさつに続き、懇親会が行われた。

なお、望年会に先立って行われた京都府協議会の臨時役員会にて、立正佼成会・京都教会に新たに赴任した佐藤益弘教会長が、京都府協議会の新議長になることが決定した。

# 庭野開祖の宗教観・平和観 「一乗の道」

#### ≪IARF 第 25 代会長に≫

欧米の各地で3年ごとに開かれるIARF(国際自由宗教連盟)の大会に庭野開祖が初めて参加したのは、昭和44年の第20回ボストン大会の時であった。キリスト教の人たちの仏教への関心は大変なもので、その後のモントリオール大会、オックスフォード大会では、求められて、立正佼成会の会員が釈尊の教えを生活の中でどう実践しているかについて、実際に法座のもち方を実演するなどして紹介した。

そして仏教の六波羅蜜の教えを「六つの幸福への道」と訳してスピーチし、西欧の宗教者に仏教を正しく理解してもらうのに大わらわだった。そうした歩みをたどって、昭和 56 年の第 24 回オランダ大会で、東洋の一仏教者にすぎない庭野開祖がIARF 第 25 代会長に、満場一致で選出されたのである。西洋の宗教者である自分たちは、もっと東洋に目を向けなくてはいけないのではないか、という欧米のメンバーの思いがそうさせたのかもしれない。

長い歴史と伝統のある IARF の会長の大役を庭野開祖が引き受けたのは、日本の宗教、とりわけ仏教について西欧の宗教者が懸命に学ぼうとしているその真剣さだった。それに答えるために全力を尽くそう、と考えたのであった。

英国の著名な歴史家アーノルド・トインビー氏が、 庭野開祖への書簡で**「21 世紀を救うものは、仏教や 儒教のような東洋の智慧が中心になるであろう」**とい う意味のことを書いておられたことがあった。現代の 世界が最も必要としているのは、人類の共同体づくり の支柱であろう。人類全体が仲良く、明るく暮らして いくそのあり方だ。

「その方向をいちばんはっきり示しているのが仏教だと、私は確信しております」と中村元・東京大学名誉教授はおっしゃられている。中村先生は、インド哲学、仏教学、比較哲学の権威として世界的な評価を得られている方だが、庭野開祖との対談の時にこう話して下さった。「現代の世界は、まだイデオロギーの対立が深刻です。それぞれの主張にはそれなりの理由があるのですが、それが世界に混乱を与えています。

釈尊は『世の中の哲人たちは自分の歩む道だけが正 しくて、他は汚れているとお互いに争っている。真理 はひとつしかないのに』と語られています。イデオロギーというものは、かなたにある究極の真理を生かすための手段にすぎません。真理の一面だけを見て全体だと思っているために、逆に真理から離れてしまい、争いが起こってきます。 釈尊が教えられたのは、そのとらわれを離れて真理の全体を見ることです。 法華経に一貫しているのが、この真理の全体像をつかまえなくてはならぬという思想なのですね」

日本の宗教者、とりわけ私たち仏教徒は、世界がいま真剣に模索してしるものに答えられる教えを頂いているのである。庭野開祖は、仏教徒としての使命をひしひしと感じていた。そして、会長就任に伴い、第25回 IARF 世界大会の開催地として東京が選ばれることになったのである。IARF の長い歴史のなかで初めて、アジアでの世界大会の開催が決定したのだった。

#### ≪東洋への関心の高まり≫

昭和59年7月28日、立正佼成会の普門館に世界の22ヶ国から800人を超える宗教者が集まった。大聖堂、普門館、法輪閣をメーン会場として、IARF第25回世界大会が開催されたのだ。東京で開かれたIARF世界大会は、「宗教による平和への道 東洋の提唱・西洋の応答」とテーマが掲げられた。

大会の主テーマに「平和」が取り上げられたのは、IARF 史上、これまた初めてのことであった。そして「東洋の提唱・西洋の応答」というサブテーマに、西欧の宗教者の東洋の思想・宗教への再評価と、それが現代の行き詰まりに一つの突破口をもたらすのではないか、といった期待が込められていた。

英国の作家キップリングは「東は東、西は西、永遠に二つは出会うまじ」と言ったが、いまや世界は"一日圏の世界"になりつつある。核の脅威、資源の枯渇、人権の侵害、貧富の格差など、現代の世界を脅かす問題の根は、西洋の思想によってもたらされたという反省が生まれ、人類が直面している危機を克服する道を東洋の英知に求めようとする潮流が、欧米の識者の間に生まれてきているのは確かだった。

例えば以前、本会がドイツのフランクフルトに渉外拠点を開設した時「オッフェンバッハ・ポスト」紙に紹介された記事の見出しは、「日本は輸出ビジネスだけを考えているのではない」というものだった。(つづく)

#### 渉外部からのメッセージ

佐藤教会長就任式には多数の来賓の先生方にご出席 を頂き、誠にありがとうございました。約1時間の式 典のためにわざわざ東京から駆けつけて頂いた国会議 員さんの姿を拝見して、新体制のもとに取り組んでい く決意の固さといいますか、地元への思い入れの大き さを感じました。つい数日前は離任式で寂しい気持ち

を引きずりがちですが、ここは気持ちを切り替えて取り組む姿勢の大切さを教えて頂いたように感じます。 私たちも佐藤教会長さんのもと渉外部スタッフ一丸となって精進に励みたいと思います。

この月報を読まれて感想などがありましたらお気軽に お寄せ下さい。 RKK 京都教会 FAX 075-762-2266